

## 小学校事例 4

## 環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして -

豊岡市立五荘小学校第3学年

## 1 テーマ

環境学習をとおして学ぶ命の大切さ - コウノトリの成長をとおして -

## 2 実践のねらい

コウノトリ放鳥の取組を調査することをとおして、自然環境保護の大切さと一羽のコウノトリが成長するには多くの命が必要であることを理解させる。また、自分の命も家族のつながりによって生まれ、多くの人たちによって支えられていることを学ぶ。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、小高い丘の上であり、緑豊かな環境の中にある。この豊かな自然は、四季折々の変化に富み、山の斜面を利用したアスレチック施設「太陽の丘」は子ども達の絶好の遊び場となっている。児童数 731 人、23 学級。

校区は、市街地の北半分と新興住宅団地とその周辺に広がる田園地帯からなり、人口 11,800 人、約 4300 世帯に及ぶ。田園地帯には、休耕田を活用したビオトープがあり、コウノトリの餌場として利用されている。また校区内には、農薬を減らして安全な米作り、水田の生き物の増殖をめざす『コウノトリ育む農法』を実践する農家もある。しかし、子どもたちは、この豊かな自然の中にありながら自然の命、自然の恵みや人とのかわりを意識することは少ない。

そこで、コウノトリ放鳥の取組を調査することにより、自然の命、自分の命の輝きに気づかせたいと考え、上記のテーマを設定し実践に取り組み始めた。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・校区内のビオトープや県立コウノトリの郷公園で生き物調査を行い、たくさんの命と出会う。
- ・高齢者とのふれあい体験活動をとおして、自分の命がたくさんの命とつながっていることを実感させる。

## 【感性を育む】

- ・ビオトープやコウノトリの郷公園の生き物との出会いをとおして、命の多様さに気づかせる。
- ・生き物と人との関わりに気づき、自分の命がたくさんの命とつながっていることを知る。

## 【想像力の育成】

- ・コウノトリの生活の調査をとおして、よりよい環境とは何か考えさせる。
- ・コウノトリの命を輝かせるためにどれほど多くの人々が努力しているかを知り、かけがえない命を輝かせるために、自分を支えてくれている人々の存在やつながりを考えさせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・校区内のビオトープについて地域の方から話を聞く。
- ・『コウノトリ育む農法』の実践農家の方から話を聞く。
- ・県立コウノトリの郷公園を訪問し、関係者の話を聞き、子ども達の見学・体験活動の方法について話し合う。
- ・子どもの家庭環境を把握し、個々の子どもへの配慮事項を考える。
- ・子どもの聞き取り内容を検討する。
- ・効果的な情報発信について研修する。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・総合的な学習の時間(単元構想図は下図参照)

(3) 子どもたちの準備

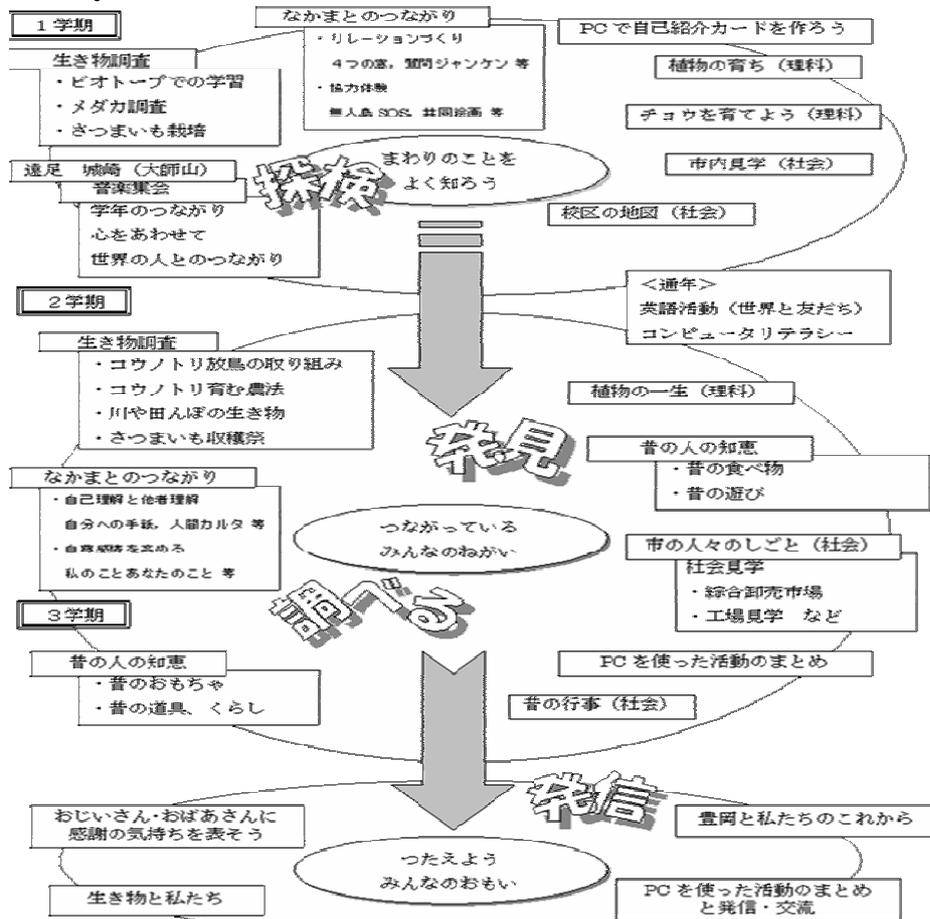
- ・校区探検、市内めぐりをして校区の様子や市内の特色に気づく。
- ・昆虫の飼育、植物の栽培(理科の学習)を体験させ、命の存在に気づく。
- ・発砲スチロール箱で稲を育て、水田に住む生き物に興味を持つ。

(4) 家庭・地域との連携

- ・校区内のビオトープの生き物調査についての協力を依頼する。
- ・『コウノトリ育む農法』について子どもたちに説明して下さるゲストティーチャーに協力を要請する。
- ・児童の家庭環境を知り、配慮事項を理解するための協力依頼をする。
- ・命の学習についてのお知らせとインタビューへの協力依頼をする。
- ・昔の暮らしを知るため、高齢者へのインタビューを依頼する。

5 本校の実践の特色

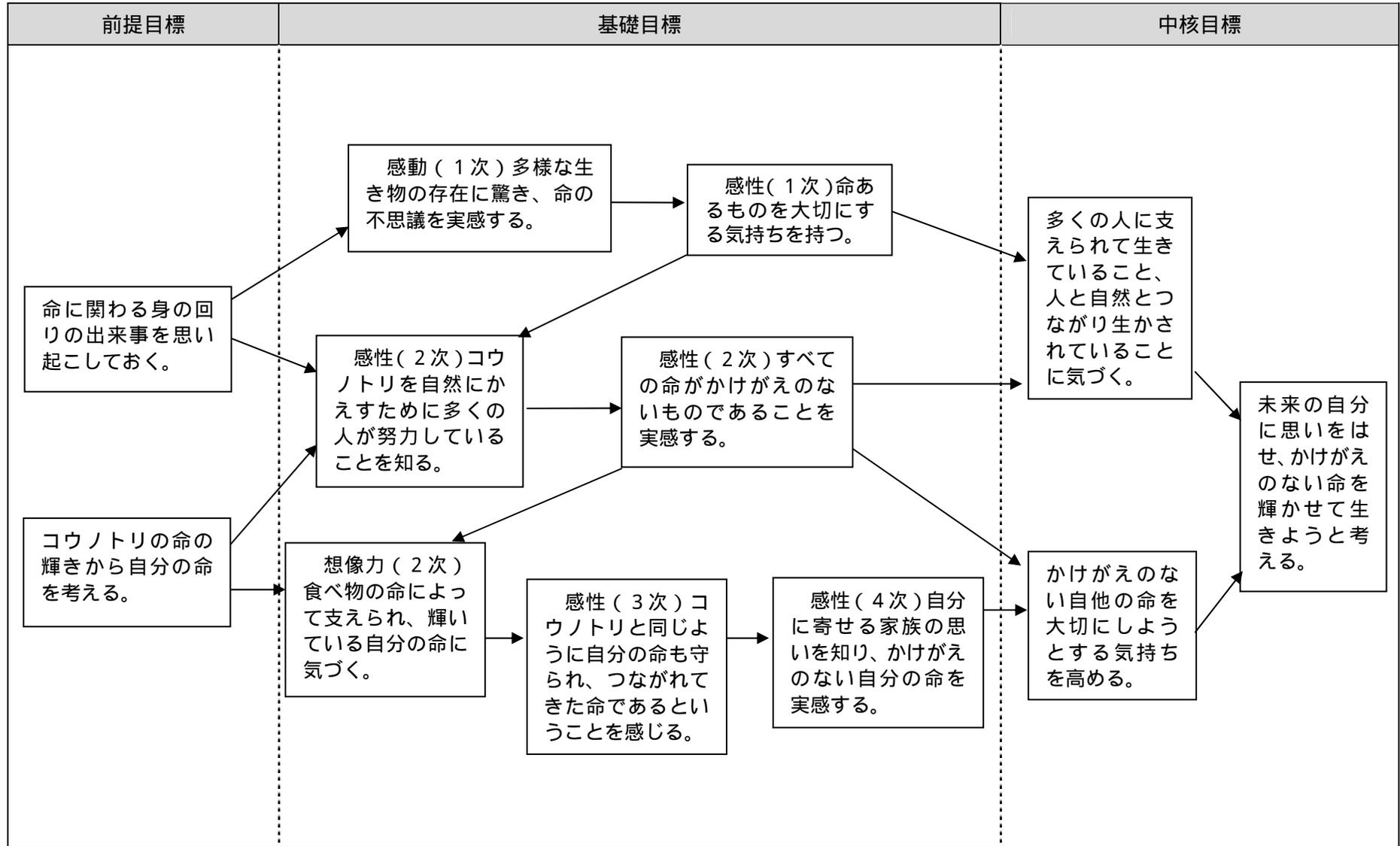
- ・校区内にあるコウノトリの餌場でもあるビオトープに出かけて、環境学習についての実践を深めたり、『コウノトリ育む農法』の実践農家をゲストティーチャーに招いて話を聞いたりして取り組みを進めている。
- ・市内には県立コウノトリの郷公園があり、放鳥にむけての取組を学んだり、体験活動をしたりして、コウノトリとの共生をめざしたこうした取組を子どもたちも身近に感じている。
- ・地域の方とともに、子どもたちは環境問題や種の保存といった命にかかわることへの理解を深めている。



6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	自尊感情についてのアンケートに記入する。 自尊感情を高める体験をする。	自他の命の存在に気づく。	命に関わる身の回りの出来事を思い起こしておく。	コウノトリの命の輝きから自分の命を考える。	
1次 (6時間)	ビオトープの生き物観察をする。 生き物カード・生き物マップを作る。	多様な生き物の存在に驚き、命の不思議を実感する。 昆虫や水中生物の体の仕組みを学習しながら命ある存在に気づく。	コウノトリを自然にかえすために多くの人が努力していることを知る。 命あるものを大切にすることが大切にする気持ちを持つ。	コウノトリの餌場が足りないことに気づく。 小さな仲間(飼育生物・栽培植物)の死にふれ、悲しみを知り、自分の命もかけがえのない存在であることを感じる。	ビオトープでの活動に進んで取り組み、生き物と触れ合うことを十分楽しむことができたか。 身の回りには多様な生き物が存在していることに気づかせることができたか。
2次 (5時間)	VTR「NHKスペシャルコウノトリがよみがえる里」をみる。 『コウノトリ育む農法』実践家の話を聞く。 ゲストティーチャーに手紙を書く。	『コウノトリ育む農法』に取り組む苦労や喜び、コウノトリやお米に対する思いに気づく。 みんなの命を守る取り組みの素晴らしさや大変さを感じる。	コウノトリを自然にかえすために多くの人が努力していることを知る。 すべての命がかけがえのないものであることを実感する。	お米作りから身近な食べ物の命の存在に改めて気づく。 食べ物の命によって支えられ、輝いている自分の命に気づく。	たくさんの命に支えられていることを理解させることができたか。 ゲストティーチャーへの思いを自分の言葉で素直に表現し、伝えることができたか。
3次 (10時間)	県立コウノトリの郷公園で放鳥までの取り組みを学習し、生き物観察をする。 生き物探検隊の活動をまとめる。	コウノトリを目の当たりにし、その大きさや動く様子に感動する。	「くちばしのおれたコウノトリ」「コウノトリのふるさと」等の読み聞かせを通して、命を守り、つなぐための大変さを感じる。 コウノトリの命と同じように自分の命も守られ、つながれてきた命であるということを感じる。	魚道や人口巣塔などから命をつなぐ工夫を知る。 コウノトリ放鳥後の課題を知り、コウノトリの命を自然の中で輝かすためにはどうすればよいのかを考える。	命は一人だけのものではなくつながり受け継がれていくものであることを実感させることができたか。 自分の思いや願いをわかりやすく伝えたり、相手の立場に立って思いを受け止めたりすることができたか。
4次 (26時間)	おじいちゃん・おばあちゃんにインタビューをし、昔のくらしの様子や人々の思いを知る。 昔のくらしを劇化し、昔の人々の知恵や願いに気づく。 家族宛てに手紙を書く。	昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づく。 これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。	家族からの手紙を読み、誕生時から現在までの自分に寄せる家族の思いを知り、かけがえのない自分の命を実感する。 かけがえのない命を大切にしようとする気持ちを高める。	多くの人に支えられて生きていること、人や自然とつながり生かされていることに気づく。 高齢者とのふれあい体験活動を通して、未来の自分に思いをはせ、かけがえのない命を輝かせて生きようと思える。	高齢者の持つ豊かさに気づかせたり、命には限りがあることを感じさせたりすることができたか。 自他の命のかけがえのなさを実感させ、大切にしようとする心情を高めることができたか。

7 目標構造図



(凡例) 感性(1次):「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	「仲間とのつながり」について構成的グループ・エンカウンターを体験する。 ・リレーションづくり・協力体験・自己理解と他者理解・自尊感情を高める体験等 < 提言 P64：教員研修テーマ > スクールカウンセラーよりリラクゼーションの指導を受ける。
b	ビオトープについて地域の方から話を聞く。 ・休耕田をコウノトリの餌場としてビオトープにしている農家の方の思いや願いを知る。
c	『コウノトリ育む農法』について農家の方に話を聞く。 ・『コウノトリ育む農法』に取り組んでいる農家の方に、この農法に切りかえた思い、苦勞や喜び、これからの農業に対する希望を聞く。
d	県立コウノトリの郷公園を訪問する。 ・県立コウノトリの郷公園でコウノトリの飼育、増殖にかかわる方の苦勞や喜び、願いを聞く。 ・コウノトリの飼育場、施設内を流れる川、ビオトープ、池などを見学する。 ・関係者の話を聞き、子どもたちの見学・体験の方法について話し合う。
e	子どもへの配慮事項や子どもが行う保護者への聞き取り内容について話し合う。 ・子どもの家庭環境を把握し、個々の子どもへの配慮を考える。 ・子どもの聞き取り内容について話し合う。
f	効果的な情報発信について研修する。 ・相手の立場に立って、わかりやすく伝える情報発信の仕方について研修する。 情報モラルについて模擬体験をとおして考える。 < 提言 P82：教員研修テーマ >

(2) 指導の概要 (全 50 時間)

内容	
事前	自尊感情を高める体験をする。 『こころのえほん』の読み聞かせをとおして、自分の心の存在に気づく。 教員研修 a
1 次 (6 時間)	コウノトリの餌場としてのビオトープの調査をする。 1 ビオトープの生き物観察をする。 (3 時間) ・多様な生き物の存在に驚き、命の不思議を実感する。 ・コウノトリの餌場が足りないことを知る。 教員研修 b
	2 生き物カード・生き物マップをつくる。 (3 時間) ・昆虫や水中生物の体の仕組みを学習しながら命ある存在に気づく。
	3 生き物調査の結果をまとめ、コウノトリの餌が足りないことを再確認する。
	4 ビオトープで見かけた身近な昆虫、水中生物 (メダカ・ドジョウ・オタマジャクシ・ミズスマシ・カワニナ等) を飼育、観察する。
	5 教室のベランダに発泡スチロール箱で水田を作り、水中生物や稲を育てる。 ・小さな仲間 (飼育生物・栽培植物) の死にふれ、悲しみを知り、自分の命もかけがえのない存在であることを感じる。 ・命あるものを大切にす気持ちを持つ。

<p>2次 (5時間)</p>	<p style="text-align: right;">教員研修 c</p> <p>『コウノトリ育む農法』の聞き取り調査をする。 (2時間)</p> <p>1 VTR「NHKスペシャル コウノトリがよみがえる里」を観る。          ・ピオトープの生き物とコウノトリとのつながりを知り、人と自然とのつながりに気づく。</p> <p>2 『コウノトリ育む農法』実践農家の話を聞く。 (2時間)</p> <p>・VTRに出演された農家の方をゲストティーチャーに招き話を聞く。          ・育む農法に取り組む苦労や喜び、コウノトリやお米に対する思いを知る。          ・お米作りから身近な食べ物の命の存在に改めて気づく。          ・食べ物の命によって支えられ、輝いている自分の命に気づく。</p> <p>3 ゲストティーチャーに手紙を書く。 (1時間)</p> <p>・驚きや感動を素直に表現し、感謝の気持ちを伝える。          ・相手にわかりやすい表現で、気持ちを込めて書く。</p>
<p>3次 (10時間)</p>	<p style="text-align: right;">教員研修 d</p> <p>県立コウノトリの郷公園でのコウノトリの観察と餌場での生き物調査を行う。 (3時間)</p> <p>1 県立コウノトリの郷公園で放鳥までの取組を学習し、生き物観察をする。          ・コウノトリの大きさや動き(飛ぶ様子、餌を食べる様子、クラタリング等)を目の当たりにして感動する。</p> <p>2 コウノトリの郷公園内のピオトープ、池を観察し、川で生き物調査をする。          ・魚道や人口巣塔などから命をつなぐ工夫を知る。          ・コウノトリの一日の食事量(体重の10%)を知り、餌場不足を再確認する。</p> <p>3 「くちばしのおれたコウノトリ」「コウノトリのふるさと」等の読み聞かせをとおして命を守り、つなぐための大変さを感じる。          ・コウノトリ放鳥後の課題を知り、コウノトリの命を自然の中で輝かすためにはどうすればよいのか考える。</p> <p>生き物探検隊の活動をまとめる。 (7時間)</p> <p>1 新聞づくりを通して、生き物と触れ合った体験、命への気づきや思いをまとめる。          ・友だちの新聞を読み合い情報を交流しながら、友だちの思いや願いに気づく。</p> <p>2 自分の思いや考えをわかりやすく伝えたり、相手の立場に立って思いを受け止めたりすることを考える。</p> <p>3 学年通信、学校のホームページ等で家庭にも学習活動を発信する。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4次 (26時間)</p>	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">教員研修 e、f</div> <p>わたしたちの命のつながりを考える。 (24時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 おじいちゃん・おばあちゃんにインタビューをし、自分の命のつながりを考える。 ・コウノトリが飛んでいた頃の話から昔の様子を尋ねる。</li> <li>2 昔の遊び、食べ物など生活の様子を知る。 ・昔の道具やくらしぶりなどから昔の人の知恵を知る。</li> <li>3 『いのちのまつり』の読み聞かせをととして命のつながりの不思議を感じる。</li> <li>4 高齢者とのふれあい体験活動(栽培したサツマイモの収穫祭、昔の生活を体験、昔の生活を劇化)を通して未来の自分を考える。 悲しみの体験から生と死を考え、命のかけがえのなさとつながりを実感する。 (2時間)</li> <li>1 『わすれられない おくりもの』の読み聞かせをととして、高齢者の持つ豊かさに気づいたり、命には限りがあることを感じたりする。</li> <li>2 道徳「大切なものは なんですか」の学習を通して、命はかけがえのないものであることを知り、命を大切にしようとする心情を養う。</li> <li>3 特別活動「わたしのかぞく」の学習を通して、家族のつながりや支え合いを理解する。</li> <li>4 家族からの手紙を読み、誕生時から現在までの自分に寄せる家族の思いを知り、かけがえのない自分の命を実感する。 ・多くの人に支えられて生きていること、人や自然とつながり生かされていることに気づく。</li> <li>5 家族に手紙を書く。 ・家族への思いを自分の言葉で素直に伝える。</li> </ol>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事後</p>

9 指導実践

(1) 1次第 1 ~ 3 時

ア 本時のねらい

ビオトープの生き物観察をとおして、生き物とふれあい、身の回りには多様な生き物が存在していることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・多様な生き物の存在に驚き、命の不思議を実感させる。
- ・昆虫や水中生物の体の仕組みを学習しながら命ある存在に気づかせる。

(イ) 感性を育む

- ・コウノトリを野生にかえすために多くの人が努力していることを実感させる。
- ・命あるものを大切にす気持ちを持たせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・コウノトリの餌場が足りないことに気づく。
- ・小さな仲間の命にふれ、自分の命もかけがえのない存在であることに気づく。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) ビオトープ実践農家の方との打合せ

- ・ビオトープの役割、どうしてビオトープを作ろうと考えたか、ビオトープの生き物調査の実態について等

(イ) ビオトープを訪ね、観察の仕方、体験学習の仕方について計画を立てる。

- ・川・水田・水路の安全性の確認、汚れを落とすための水道の確保等

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 ビオトープ実践農家の方の話を聞く。 ・ビオは命、トープは広場の意味を持つ。 ・大学の調査隊が定期的に個体調査を実施している。 ・郷公園内のコウノトリが全て自然放鳥されるにはたくさんのビオトープが必要である。	・農家の方の思いを感じながら話を聞かせる。 ・生き物観察の方法を知らせる。 ・安全に楽しく活動できるように注意する。
展 開	2 ビオトープの生き物を見つける。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         生き物調査隊 ビオトープを探検しよう！                     </div>	・進んで活動に参加できるよう声かけをする。
	3 見つけた生き物を見せ合いながら体の仕組みを観察し、仲間分けをする。 ・多様な生き物がいることに驚いた。 ・コウノトリが何を食べるのかを知りたい。  4 どれくらいの生き物がコウノトリの命を支えているのか考える。  <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	・水田の感触を味わわせる。 ・多様な生き物がいることに気づかせ、身の回りにはたくさんの命が存在することを感ぜさせる。  ・コウノトリの食べ物に興味を持たせ、調べてみようとする意欲を高める。 ・県立コウノトリの郷公園での活動に発展させる。

まとめ	5 次時の活動を聞き、改めてビオトープに生きる命の多様さを感じる。	・次時は今日出会った生き物をカードにし、さらに生き物マップへと発展させることを知らせる。
-----	-----------------------------------	--

カ 先生の振り返り (次の実践に向けて)

- (ア) 導入の話の中で、ビオトープは「命の広場」だということが分り、この命がコウノトリの命を支えていることに気づいた。
- (イ) 生き物の多様さに驚き、初めて見る生き物に感動し、もっと調べてみたいという意欲が高まった。
- (ウ) コウノトリへの興味・関心の高まりをさらに次の活動へとつなげたい。



ビオトープを探検する子どもたち



生き物カード・生き物マップ

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	ビオトープの生き物観察は、楽しかったですか。 ビオトープにすむ生き物を見つけてどう思いましたか。	
感性を育む	コウノトリを自然にかえすために地域の人はどんなことをしていたでしょう。	
想像力の育成	どうすればコウノトリが自然の中でくらししていけるのでしょうか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(2) 2次第3・4時

ア 本時のねらい

『コウノトリ育む農法』実践農家の話を聞き、コウノトリの命がたくさん生き物の命と人々の努力に支えられて輝いていることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・『コウノトリ育む農法』に取り組む苦労や喜び、コウノトリやお米に対する思いに気づかせる。
- ・みんなの命を守る取り組みの素晴らしさや大変さを感じさせる。

(イ) 感性を育む

すべての命がかけがえのないものであることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・お米作りから身近な食べ物の命の存在に気づかせる。
- ・食べ物の命によって支えられ、輝いている自分の命に気づかせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) ビデオ「NHKスペシャル コウノトリがよみがえる里」(2006年8月27日放映)を鑑賞し、『コウノトリ育む農法』について理解する。

(イ) 『コウノトリ育む農法』の実践農家をゲストティーチャーに迎えるための打合せをする。

- ・ゲストティーチャーに学ぶ会を子どもたちが運営できるようにする。

(ウ) ゲストティーチャーとの打合せ

- ・『コウノトリ育む農法』に切り替えたのはなぜか。
- ・この農法で米作りをする苦労や喜びについて、子どもたちに期待すること 等

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 ゲストティーチャーの紹介を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRに出てきた人だ。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区に住む方であることを知らせ、身近な所で『コウノトリ育む農法』は実践されていることに気づかせる。</li> </ul>
展 開	<p>2 ゲストティーチャーの『コウノトリ育む農法』についての話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の苦労や喜びなどゲストティーチャーの気持ちを考えながら聞かせる。</li> <li>・疑問に思ったこと、伝えたいことを素直に表現できるように支援する。</li> </ul>



(3) 3次第2・3・4時

ア 本時のねらい

コウノトリの命はたくさんの生き物の命と人々の努力によって支えられ、つながり、輝いていることを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

コウノトリを目のあたりにし、その大きさや動きに感動する。(飛ぶ様子、餌を食べる様子、クラタリング等)

(イ) 感性を育む

命を守り、つないでいくための大変さを感じる。

(ウ) 想像力の育成

コウノトリ放鳥後の課題を知り、コウノトリの命を自然の中で輝かすためにはどうすればよいかを考える。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 県立コウノトリの郷公園の関係者との打合せ

- ・活動場所の確認について
- ・コウノトリ放鳥までの取組について
- ・放鳥後の課題について
- ・川での生き物観察の仕方について

(イ) 体調等について配慮する子どもの確認をする。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 コウノトリの郷公園の指導者とあいさつをする。 (児童代表)	・活動のめあてなど児童の思いを伝えさせる。
展 開	2 コウノトリ放鳥までの取組について関係者から話を聞く。	・長い年月をかけ、試行錯誤を繰り返した取組の大変さを感じさせる。
	3 疑問に思ったこと、さらに深く知りたいことなどを尋ねる。	・これまでの学習の中で見つけた課題についても尋ねさせる。
	<b>生き物探検隊 川の生き物を観察しよう!</b>	
	4 川の生き物を観察する。 	・ビオトープと比べながら活動に取り組みさせる。

展 開	<p>5 見つけた生き物について説明を聞く。</p> <p>6 コウノトリの餌について話を聞く。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの話を聞きながら、魚道などの工夫に気づかせる。</li> <li>・コウノトリの1日の食事量を知らせ、餌場不足に気づかせる。</li> </ul>
ま と め	<p>7 お礼の言葉とコウノトリと出会って感じたことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動を自分の素直な言葉で伝えさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) コウノトリを間近に見て、その大きさや動きにたびたび感動の声があがった。
- (イ) コウノトリの命を守り、つないできた人々の努力に驚いた様子だった。さらに自然復帰をめざして今も多くの人が努力していることを知った。
- (ウ) 自分の生活を振り返り、コウノトリとの共生について考えることをとおして、自分の命について考える取組につなげたい。



大空を舞うコウノトリ

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	コウノトリに出会ってどう思いましたか。	
感性を育む	コウノトリの命と同じようにあなたの命について考えてみましょう。(あなたの命が危険にさらされたことはないでしょうか。)	
想像力の育成	コウノトリの命を守り、つないでいくためにどんなことをしていましたか。	
全体を振り返った感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第 18時

ア 本時のねらい

劇をとおして、昔のくらしの知恵や工夫、人とのつながりについて考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づく。
- ・これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。

(イ) 感性を育む

お金や物が豊富でなくても、手間をかけ、助け合い、心を通わせあってくらしていたことに気づく。

(ウ) 想像力の育成

今も昔も変わらないものについて考える。

ウ 準備物 昔のくらしで使っていた道具類・参考になる写真等

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 昔のくらしについて家族にインタビューする内容を検討する。

- ・昔の暮らしの様子：おやつ・遊び・服装・道具・学校・行事等

(イ) インタビューの依頼文を作成し、配布する。

(ウ) インタビューシートを作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時のめあてを知る。	
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">                     劇の中から昔のくらしの知恵や工夫、人とのつながりを見つけよう！                 </div> 2 代わる代わる劇をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズを出題する。</li> <li>・劇をする。</li> <li>・劇やクイズから見つけたことを発表する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にわかりやすい声で伝え、互いに協力できるよう支援する。</li> <li>・自分の役割を果たそうとする意欲を高め、やりとげた満足感を味わわせる。</li> </ul>

	<p>3 昔のくらしの様子を聞いたり、生活体験をして、そのよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人の知恵や工夫</li> <li>・人とのつながり</li> <li>・学校生活</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金や物が少なくても、手間をかけ、助け合い、心を通わせあってくらしていたことに気づかせる。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>4 今日の学習を振り返り、学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、自分達のくらしについて振り返ることを知らせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 友だちの演じる劇に興味深く見入るとともに、自分なりに演技を工夫し、相手によりわかりやすく伝えようとする姿勢が見られた。
- (イ) 物の少なかった昔の生活にふれ、改めて自分の生活を見直したようである。
- (ウ) 驚いたことやわかったことをまとめる中で、昔の人々のくらしを体験してみたいという意欲が高まった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学 習 ・ 体 験 の 目 標 ( め あ て )	自 分 の 振 り 返 り
感動の体験	昔のくらしを演じてみてどんなことを感じましたか。 昔のくらしの劇を見てどんなことを感じましたか。	
感性を育む	手間をかけ、助け合い、心を通わせていた昔の人と人とのつながりを感じることができましたか。	
想像力の育成	自分の今の生活も、多くの人たちの協力と支えが必要であることについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(5) 4次第 21・22・23・24時

ア 本時のねらい

高齢者とのふれあい体験活動をととして、昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づき、未来の自分を考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・昔の人々の豊かな知恵と温かい心に気づく。
- ・これまでの自分が支えられ、愛されてきたことに気づく。

(イ) 感性を育む

- ・今に伝わる昔の人々の知恵を生活の中にいかし、さらに未来へと発展させていこうとする。

(ウ) 想像力の育成

- ・ふれあい体験活動をととして、昔の生活を想像する。
- ・未来の自分に思いをはせ、かけがえのない命を輝かせて生きようとする。

ウ 準備物 昔のくらしで使っていた道具類・参考になる写真等

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 高齢者とのふれあい体験活動についての打合せ

- ・体験の内容、家庭への道具の借用依頼、ゲストティーチャーへの依頼内容等

(イ) ゲストティーチャーとの打合せ

- ・体験や講演の内容について、本時のねらいを説明し協力依頼をする。

(ウ) ゲストティーチャーに学ぶ会を子どもたちの手で進められるように支援する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 「昔のくらしを学ぶ会」の用意をする。	・会の進行、プログラム作り、各コーナーの案内カード作り等、役割分担して準備を進めながら活動への意欲を高めさせる。
展 開	<p style="text-align: center;"><b>「昔のくらしを学ぶ会」を開こう!</b></p> <p>2 はじめの会を行う。</p> <p>3 昔のくらしの様子を聞いたり、生活体験をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔のくらしのお話コーナー</li> <li>・昔の道具コーナー</li> <li>・洗濯体験コーナー</li> <li>・おやつ(かきもち焼き)コーナー</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4 ゲストティーチャーにお礼と感想を述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの力で進められるよう支援する。</li> <li>・昔の生活の苦労や喜びなどゲストティーチャーの気持ちを考えながら聞かせる。</li> <li>・尋ねたいこと、伝えたいことを素直に表現できるように支援する。</li> </ul> <p>・お礼の気持ちをこめた温かい会になるよう支援する。</p>



## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

実践を終えて、以下のような子どもたちの変容を実感できた。

- ・体験活動をとおして多様な命の存在に気づいた。
- ・自分たちの命ばかりでなく自然の命や物の命までも大切にしていこうとする気持ちが高まった。
- ・活動をとおして、自分の中にあった力に気づいたり、友だちの持つ力を見つけたりすることができた。(自尊感情の高まり)
- ・自然に支えられ、人とかかわりの中で命は生まれ、つながれていることに気づいた。
- ・友だちを大切にできる心が生まれ、子ども同士の温かい雰囲気作り、仲間づくりが進んだ。また、この取組をとおして、指導者としても次のような変容を感じている。
- ・子ども達と感動体験を共有する中で指導者の意識が高まり、指導者の「自分の思いを子ども達に語る会」実施へと発展した。
- ・学年の取り組みを学校全体への取組へと発展させ、「命の大切さを実感し、生き方を考える性教育」として系統的な指導に取り組みようとする意識が高まった。

### (2) 今後の課題

学校全体で取り組む性教育や防災安全教育、人権教育等において、学校全体の教育活動の中で「命の大切さ」を実感させる教育を意識化していかなければならない。と同時に、命の学習には家庭や地域とのより一層密な連携が欠かせない。親子学習会や三世代座談会等を実施し、お互いの思いや願いを交流する機会を持つことをとおして、感動体験を家庭や地域と共有することが必要であろう。

また、子どもの意識の高まりを日常生活の中でも生かすため、学級通信やホームページをとおして家庭や地域に、活動の様子を発信し啓発していき、活動を支える体制を整えていくことが課題である。

## 11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』2006
- ・川久保美紀『いのちのリレー』ポプラ社 2005
- ・國分康孝『エンカウンターで総合が変わる 小学校編』図書文化 2000
- ・近藤卓『学校メンタルヘルス vol 9 巻頭言』日本学校メンタルヘルス学会 2007
- ・近藤卓『「いのち」の大切さがわかる子に』PHP 2005
- ・草場一壽『いのちのまつり』サンマーク出版 2004
- ・なかえよしを『こころのえほん』ポプラ社 1999
- ・司馬遼太郎『21世紀に生きる君たちへ』朝日出版社 1999
- ・スーザン・バーレイ『わすれられないおくりもの』評論社 2006
- ・八巻寛治・吉澤克彦『エンカウンター実践テキスト2号』明治図書 2005